

2026 年度
地域 DX・自治体 DX 推進検討ワーキンググループ
活動計画

ICT 利活用地域イノベーション委員会
地域 DX・自治体 DX 推進検討ワーキンググループ

1. 2026 年度の活動の背景と方針

地域 DX、自治体 DX の推進が地域社会を持続可能とするために欠かせないものであり、自治体職員、DX 関連企業の共創による DX 推進を図る活動を目指す。

特に生成 AI の活用においては自治体職員のエージェント活用を当面のメインテーマとするため、生成 AI 活用推進 SWG での活動に重点を置く。

また、APPLIC が事務局を務める JCC(Japan CDO Community)と連携することで自治体 CDO、CIO などの幅広い立場の人材が集まった場での議論ができることからタイムリーな話題を受け入れて柔軟な取り組みができるよう活動する。

2. 2026 年度の活動計画

(1) 生成 AI 活用推進 SWG の活動

- ・ 地方自治体における AI エージェント活用の現状分析を実施し、課題抽出とあるべき姿を検討する。
- ・ あるべき姿の検討で課題解決、ペルソナの検討に向けたワークショップ等を開催する。
- ・ AI エージェントの利用環境、職員ナレッジの持ち方を具体化させる。
- ・ 原則月 1 回の推進ミーティングを開催し、隔月で定例会を開催する。
- ・ 自治体 AI に関する勉強会を開催し、WG 会員の知識力向上を目指す。

(2) 共催イベント(パネルディスカッション、サイドイベント等)の実施

- ・ 自治体・公共 Week 他の講演・展示イベントを有効活用し、会員同士の交流および JCC 会員他との接点が強化できる場を設定する。

(3) 新たな検討テーマの設定と活動

- ・ 自治体職員の DX 推進に大きなインパクトを与える事象について、官民一体での議論ができる APPLIC の強みを活かして本 WG で討議する。情報源として省庁からの検討依頼、JCC との連携で摘出された検討テーマ等から設定する。
- ・ テーマ例として「自治体フロントヤード改革」を想定しているが、喫緊の検討テーマが発生した場合は改めて WG 内で調整する。

3. 成果物

- 生成 AI 活用における活用方法の型、ナレッジ化の方針、共通課題の解決方針
- 共催イベント実施報告
- 「自治体フロントヤード改革」(仮テーマ)の検討結果報告書

以 上